

3校合同で地元施設を
利用して実施！

地元施設を活用した体験活動の先進例

きらり！いいとこ，自分発見！ふるさと感じ隊

安芸高田市立川根小学校

安芸高田市立来原小学校

安芸高田市立船佐小学校

対象学年（5年）

【体験活動場所・宿泊場所】 安芸高田市・安芸高田少年自然の家・輝ら里

【実施期間】平成26年7月29日（火）～8月1日（金）

【学校紹介】

○近況：高宮中学校区にある3校は、平成25・26・27年度 文部科学省人権教育総合推進地域事業の指定校を受け、学校教育目標を「夢と志をもち、自ら高め、みがき合う児童の育成」とし、「自他のよさや違いを生かし、つながり合い、共に高め合う児童の育成」を研究主題として共同研究を進めている。

また、「川根小学校」といえば「自転車」と言われるほど、その歴史も古く、昭和41年から毎年、県の自転車大会へ参加・入賞をしており、記録によると昭和43年には国際大会への出場経験もある。

「船佐小学校」は、130年の歴史を重ねてきた学校で、平成4年から始まった「ふなさっこ太鼓」が伝統として受け継がれ、船佐小教育とともに子供達にしっかりと根付いている。

「来原小学校」はいち早く器楽教育に取り組み、昭和30年、当時としてはめずらしいラジオ放送に出演、さらに中国こども音楽会で「優秀賞」に輝くなど伝統ある「ブラスバンド演奏」を行っている。

○校長名：山根昌美 栗栖千賀子 中井純子

○児童数（学級数）：26(3)，69(8)，49(6)

○所在地：

広島県安芸高田市高宮町川根 1920

広島県安芸高田市高宮町原田 3375

広島県安芸高田市高宮町佐々部 915-1



川根小学校



来原小学校



船佐小学校

○電話番号：0826 (58)0005 (57) 1012 (57)0056

【体験活動のねらい】

- 共同生活を通して望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深めるとともに、公共の精神を養い、協力してより良い学校生活を築こうとする態度を養う。
- 家庭から離れて生活することにより、家族の大切さを再認識し、家族への感謝の気持ちを養うとともに、自立した生活態度を育てる。
- 高宮町内の5年生が合同合宿を行うことで、中学校への滑らかな接続の一つの機会とする。
- 安芸高田市の伝統や文化、歴史に触れ、郷土への理解と愛着をより深める。

【日程(活動プログラム)】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	朝の活動		朝食	午前の活動				昼食	午後の活動				夕食	夜の活動			
第1日									入所式 オリエンテーション	野外炊事				星空観察	入浴	振り返り	
第2日	起床 朝のついで	掃除	朝食	活動準備	カヌー体験			昼食	陶芸・アイスクリーム作り			移動	夕食	入浴	お手紙	班別活動	振り返り
第3日	起床 朝のついで	掃除	朝食	活動準備	ウォークラリー	自由時間	昼食	歴史民俗博物館見学・体験	班別活動 【キャンプファイヤー準備】			夕食	キャンプファイヤー		入浴	振り返り	
第4日	起床 朝のついで	掃除	朝食	退所準備	退所式	移動	ハンドボール体験	各校へ									

【参加児童の学年別、男女別数】

学年	川根小		来原小		船佐小		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
5学年	4	2	8	5	2	2	14	9
総計	6		13		4		23	

【地元施設を活用した体験活動を実施する上でのポイント】

- 安芸高田市の伝統や文化、歴史に触れ、郷土への理解や愛着を深める活動にした。
- 各体験において、事前にプログラムのねらいを連絡して共有しておく。
- ①八千代湖畔～カヌー体験

八千代湖は湖面が広く水面も穏やかなことからカヌー競技の適地として、アジアカヌー選手権大会やアジア競技大会広島大会など多くのカヌー競技が行われている。地元のカヌー協会に講師依頼をし、当日までに準備することや活

動内容を打ち合せた。活動場所の確認を念入りに行い、安全対策及び熱中症対策など児童の健康管理を行った。土師ダムでカヌーを体験することを通して、ふるさとで行われているスポーツに親しませる。

②鶴学園八千代校舎～アイスクリーム作り，陶芸体験

地元の八千代湖畔にある森の中の施設で、アスレチックや工芸の用途に合わせた活動ができる。今回の合宿では、安芸高田市の自然の中の植物をモチーフにしてお皿を作る体験と、牛乳を材料として協力してアイスクリームを作る体験をする。本活動を通して、地元の自然や魅力を再発見させることができるよう、早めに活動内容の打ち合わせを行った。

③安芸高田市歴史民俗博物館～民具体験

安芸高田市歴史民俗博物館にある民具は、市内の民家や施設から集められたものである。当施設は、実際に地元で使われていた民具を使って体験することができ、本市の暮らしのうつりかわりや先人の知恵が感じられる。

児童が自ら体験し、現代の生活と比べたり、当時の便利さを感じたりできるよう、当施設の学芸員と事前に目的を明確にして、所要時間や体験内容、準備物等の打ち合わせを行って実施した。

④湧永製薬ハンドボール部「レオリック」～ハンドボール体験

本市には日本最高峰のハンドボール実業団チームの湧永製薬ハンドボール部がある。地元の子どもたちとの交流も深く、部員直接の指導により、地元から全国レベルの大会などへ多くの選手を送り出している。そのようなスポーツに親しみ、仲間とともにかかわりを深める活動と位置づけた。年度初めにはスケジュールの確認を行い、子供向けの説明とハンドボール体験において、直接選手の指導を受けることができるよう連携をとり、本活動につなげた。

○意欲と目標をもって合宿に参加するため、合宿の合言葉を決めた。

○町内3校の児童の交流も目的とし、共同生活を通してグループ活動を積極的に取り入れたり、協力して活動するための班編成を工夫したりした。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
6月	調理実習	2	家庭科	学校	担任
	規範意識 資料名「星野君の二塁打」	1	道徳の時間	学校	担任

7月	宿泊体験活動についてのオリエンテーション ・目標設定 ・活動計画作成 ・活動時間表作成 ・役割分担・内容について細案作成 ・持参物の確認 ・安全に係る事前指導		学級活動	学校	担任
7月29日 ～ 8月1日	宿泊体験活動 ・野外炊事 ・星空観察 ・カヌー体験 ・アイスクリーム作り ・陶芸体験 ・手紙を書く ・ウォークラリー ・民具体験 ・キャンプファイヤー ・ハンドボール体験		学校行事	安芸高田市少年自然の家	カヌー協会の指導員 鶴学園八千代校舎職員の方 安芸高田市立民俗博物館職員の方 湧永製薬の職員の方 選手の皆さん 引率職員
9月	宿泊体験活動の振り返り ・班ごとに目標の振り返りをする。 ・お世話になった人に手紙を書く。 合宿を俳句・短歌で表す。 思い出交流会	1 1 1	学級活動 国語 学活	学校	担任 担任 担任
11月	炭焼き体験合宿	6 1	総合的な学習の時間 家庭科	学校	担任 引率職員 地域の方

【体験活動の概要】

カヌー体験

土師ダムでカヌー体験をした。カヌーの操作方法を教えてもらい、早速こいでいた。初めて体験する児童がほとんどだったが、グループごとにカヌーの先生にコツを教えていただき、みんな上手に進んだり曲がったりして、楽しんだ。



陶芸体験

施設の先生にご指導いただき、慎重に粘土の塊をこねて、楕円形に伸ばしていった。思い思いのデザインで、世界でたった一つの作品を作ることができた。

最後に、自分が採った葉を使って大胆に型押しして、ふちを起こして完成！思い出の詰まった一品を作った。焼き上がりをとても楽しみにしていた。



野外炊飯

カレーと野菜サラダを作った。火を起こすところから、みんなで力を合わせて、手際よく動いて作ったカレーは、おいしくできた。飯盒にこびりついたご飯やすずを、グループのみんなと協力して、後片付けをした。



毎日ご飯を作ってくれる家の人に感謝の気持ちを伝えたいと強く感じている。

【体験活動の効果をもとめるための取組のポイント(事前・事後学習)】

○国語「季節の言葉」

体験したことを基に、一番心に残ったことを川柳にした。体験しなければわからない実感を言葉にすることで、改めて想起することができた。

○読書感想文「男子弁当部」を読んで」

夏休みに読んだ本と自分の体験をつなげ、これからの生活につなげようとしている。

おふるばで
女神役 頭真っ
あせかいて ゴールしたよ
カヌーこぎ 向こう岸まで
うでいたし
ワイワイガヤガヤ
火の前で
はしゃいだぞ
ウオーラリー

一部抜粋

私にも同じような経験があります。学校の合宿でウォークラリーをしたとき、地図の見方が分からなくて、班のみんなの意見がばらばらになったときがありました。私は班長だったので、みんなをまとめたかったけど、うまくできなくて、このままで大丈夫かなと感じていました。けれど、班のみんなと意見を少しずつ出し合うことで、地図の見方が分かってきました。その結果、最後はみんなでゴールすることができました。

もし一人だったら、自信がなくて前に進めませんでした。みんながいても、意見がばらばらのままだったら、きっとゴールできていませんでした。みんなが協力して地図の見方を話し合うことで、地図の見方を見つけることができたんだと思います。

この本を通して、チームに大切なのは友達のために協力することだと分かりました。男子弁当部のように、チームのみんなが、自分のことだけでなく、他の人のことを思っで行動することが、チームであり仲間なのです。

私にもチームがあります。それは、自分の学級です。勉強やプラスバンド活動では、みんなと教え合っています。人はそれぞれ得意なことや苦手なことが違います。だからこそお互いに協力して助け合うのがチームなんだと思います。これからも、みんなで協力しあっていきたいです。

○総合的な学習の時間「炭博士になろう」～炭焼き合宿

主なねらいは、地域の産業として受け継がれている炭焼きを体験することにより、地域をより身近なものに感じ、工夫や苦勞を知ることで郷土を愛する心を育てることである。また、集団生活を通し、一人一人が力を出し合い、ともに生活する中で仲間の良さに気付かせるために、15年前より毎年行っている。



炭焼きの話を聞きました。

今年度は、きりり合宿で学んだ、協力して働く、見通しをもって動く、自主的に

動する，地域の指導者の方へ感謝の心を持つことを本合宿に生かすようにした。地域の方の想いを受け止め，協力して活動する姿が多く見られた。

【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

○交流先や施設等との連携

- ・事前・・・ 施設使用にあたっての手続き・救急時の医療機関等についての連携。
体験する際の講師の紹介と体験内容や諸準備・アレルギー児童の確認などの連携。
- ・活動中・・・ 熱中症対策。
- ・事後・・・ 体験の感想とお礼の手紙送付。

○体験活動を安全に実施するために特に留意したこと

- ・児童の健康状況を把握するために「健康調査」を行い，食物アレルギー等，担任と養護教諭が打合せ会にて児童一人一人の留意事項を確認した。
- ・移動時の交通安全指導，調理時の火気の取扱い，宿舎での過ごし方について事前指導を徹底した。また，水辺での活動もあるので濡れてもよい服装と履物を準備することも含め，事前準備の確認をした。
- ・緊急車両を準備したり，救急用品を持参したりした。
- ・3校合同の緊急時の連絡網を作成し，児童の実態を含めて情報を共有できるようにした。
- ・時期的に暑さ厳しい折で，温湿度計を使って現状把握を行い，水分補給を行うことに留意した。

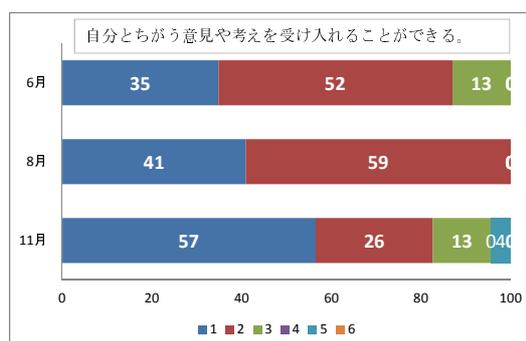
○改善点

- ・暑い時期での実施であったため，児童の健康管理が心配された。来年度も野外での活動では水分補給が十分できるよう予算や購入物品に配慮する。
- ・指導体制を計画する際，3校の職員・養護教諭が交代で引率できるようにすることと，各学校の職員が必ずいることを確認する。

【体験活動の成果と課題】

同じ中学校に進学する児童が今回の体験活動を通してお互いをよく知り合えただけでなく，自ら考え行動することを通して，班のメンバーで協力して何事も行おうとする気持ちや連帯感が高まった。

児童アンケートで3回目に肯定的回答「1」が増えたのは「自分と違う意見や考えを受け入れることができる」という項目



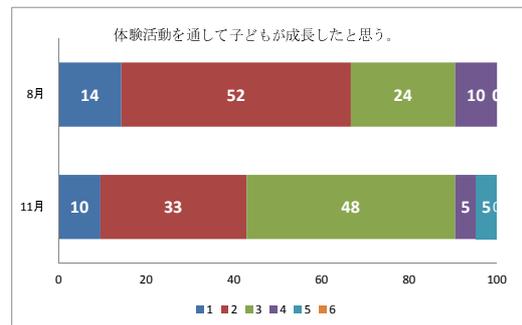
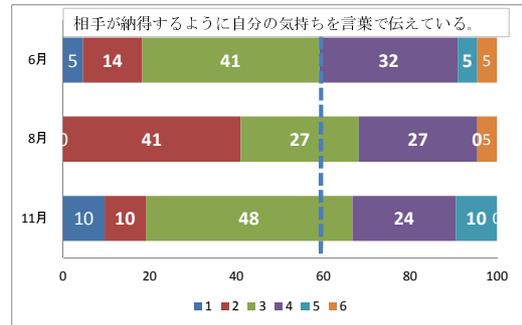
である。合宿直後は肯定的回答が 100%であったのは、協同的なグループ活動を行ったことにより、日々の振り返り設定したことにより子供たちがより実感できた結果からと考えられる。

また、合宿での体験を通して、人との付き合い方を学ぶことができた結果と思われる。

保護者アンケートでは、「自分の気持ちを伝えることができる」の項目において、合宿直後、「2」が 41%と増え、肯定的回答は 68%である。体験を通して感じたことを話す機会も含めて、家庭での会話も増えたと考えられる。

「体験活動を通して子どもが成長した」

の項目では肯定的回答が 90%で、「1」から「3」の割合に変動があるものの、合宿を通しての成長を感じておられることが分かる。



- ～保護者のコメントより～
- 以前よりもまたさらに、自分のことをやり、決められたことを自分から実行しようと思えるようになったから。
 - 他校の友達とも仲良くなり、気の合う仲間ができ、自信を持ったように思います。
 - 合宿から帰って来た時、生き生きしていた。もらった手紙の内容などから、集団（人との関わり）について、「協力する」ということなど、考えるようになってきつつあるのかなと感じる。
 - 体験してみなければわからないこと、感じられないことがあると思う。体験したことによって感じたこと、わかったことは子どもにとって大きな収穫であり、成長していると思うから。家で自分とちがう意見や考えが出たとき、相手の気持ちを考えながら自分の気持ちも話せるように少しできるようになったと思うから。

○改善点

- ・ 4年、5年、6年と町内三小学校合同で行う活動のねらいを明確にして、計画的、系統的に行うことが必要である。
- ・ 星空観察は施設の立地条件から考えて適切でないため、交流親睦を目的とした活動を仕組む方がよい。
- ・ アンケート結果より意識が向上している項目については、その高まりを持続させるための学校での教育活動を関連させて行く必要がある。
- ・ ふるさと安芸高田にある施設を利用した公共の精神を育む活動として、地域へのボランティア体験等を取り入れることにより、自己有用感や自己肯定感を高めていきたい。